

令和3年度 学力・学習状況調査の結果について

I 令和3年度(2021年度) 横須賀市立小・中学校学習状況調査の結果について

小学校2～5年生と中学校1・2年生を対象とした「横須賀市立小・中学校学習状況調査」について、令和3年4月12日(月)～4月21日(水)に教科調査を、同年5月6日(木)～6月1日(火)に質問紙調査を、それぞれ実施しました。

本市の学習状況調査は、本市の他に、他の自治体においても、各学年、各教科概ね13万人から20万人が参加して、同一調査問題を用いて実施されているため、本市の結果を全国の状況と比較することができます。

本市では本学習状況調査について、限られた教科および学年での実施であることや、それぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことから、調査結果が児童生徒の学力すべてを表すものではなく、学校の教育活動の一側面を示すものと考えています。

しかし、本学習状況調査の結果を児童生徒の学習状況を客観的に把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のためにしっかりと役立てていきたいと考えています。

また、子どもたちに「確かな学力」を育むためには、学校だけでなく家庭や地域のご協力が必要です。そのためにも、子どもたちの学力や学習状況の現状を理解していただくとともに、学校教育活動にも積極的なご支援をいただくため、本年度も本市の状況および課題について公表することとしましたので、ご理解いただきますようお願いいたします。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

横須賀市立小・中学校学習状況調査を実施し、横須賀市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、その調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善および児童生徒の学習に役立て、横須賀市として必要な施策の策定に資することを目的としています。

(2) 調査事項

小学校2～5年生：①国語(聞き取り 有) ②算数 ③質問紙

中学校1・2年生：①国語(聞き取り 有) ②数学 ③質問紙

※各学年・各教科、前学年までの履修内容を出題範囲としています。

(3) 公表について

序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

2 教科別結果の見方

各学年の教科別の結果については、「教科全体」および「基礎」と「活用」の結果について、同じ問題を受検した全国の児童生徒全体の平均正答率を 100 としたときの、横須賀市の平均正答率を示しています。同じ問題を受検した全国の児童生徒数は、学年や教科によって異なりますが、概ね 13 万人から 20 万人となっています。

3 横須賀市立学校の教科別結果

【小学校 2 年生】

	国 語			算 数		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	94.4	97.4	85.7	94.8	96.4	86.0

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

教科全体の市平均正答率は、全国正答率 76.9% に対し 72.6% でした。

領域別に見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」は全国正答率と同程度でしたが、「書くこと」が大きく下回っており、特に記述式の問題での無解答の児童の割合が高いことが課題であるといえます。

【算数】

教科全体の市平均正答率は、全国正答率 83.0% に対し 78.7% でした。

領域別に見ると、「数と計算」、「測定」、「データの活用」は全国正答率と同程度でした。「数と計算」の示された減法の式から適切な文章問題を作る問題では、全国正答率を 15 ポイント以上、下回り、無解答の児童の割合は 30% に達しており、課題であるといえます。

【小学校3年生】

	国 語			算 数		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	87.8	90.9	78.6	92.7	93.6	88.5

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

教科全体の市平均正答率は、全国正答率 71.3% に対し 63.3% でした。

領域別に見ると、特に課題があるのが「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」で、全国平均を大きく下回りました。情報と情報の関係についての理解が求められる問題では、無解答の児童の割合が 30% 程度に達し、条件に沿って書く作文の無解答率の 41.1% とあわせて課題であるといえます。

【算数】

教科全体の市平均正答率は、全国正答率 75.5% に対し 70.0% でした。

領域別に見ると、「数と計算」、「図形」、「測定」、「データの活用」のいずれの領域も、全国正答率を 4~8 ポイント程度下回りました。中でも「数と計算」の、加法の結合法則を用いて考え方に合うように式に括弧を書く問題では、全国正答率を 10 ポイント以上、下回っており、課題であるといえます。

【小学校4年生】

	国 語			算 数		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	89.7	91.0	86.0	94.0	94.7	91.6

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

教科全体の市平均正答率は、全国正答率 69.3% に対し 62.1% でした。

領域別に見ると、「我が国の言語文化に関する事項」は全国正答率と同程度でした。「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」が、全国正答率を大幅に下回っており、課題のある領域といえます。特に条件に沿って書く作文の無解答率は 34.6% と、全設問中で最も高い結果でした。

【算数】

教科全体の市平均正答率は、全国正答率 70.9% に対し 66.7% でした。

領域別に見ると、「データの活用」が全国正答率を 5 ポイント程度下回りました。また、「数と計算」の、余りを切り上げて処理し、その理由を説明する問題では、全国正答率を 10 ポイント以上、下回っており、課題であるといえます。

【小学校5年生】

	国 語			算 数		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	93.2	93.9	91.1	92.5	93.2	90.7

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

教科全体の市平均正答率は、全国正答率 67.8% に対し 63.2% でした。

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国正答率と同程度でしたが、「書くこと」が全国正答率を大幅に下回っており、課題のある領域といえます。特に条件に沿って書く作文の無解答率は 31.2% と、全設問中で最も高い結果でした。

【算数】

教科全体の市平均正答率は、全国正答率 65.3% に対し 60.4% でした。

領域別に見ると、「データの活用」の市平均正答率は 30% 台後半にとどまり、全国正答率を 7 ポイント程度下回っており、課題のある領域といえます。

【中学校1年生】

	国 語			数 学		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	94.2	94.1	94.3	95.7	96.2	93.1

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

教科全体の市平均正答率は、全国正答率 71.4% に対し 67.3% でした。

領域別に見ると、「情報の扱い方に関する事項」、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「読むこと」は全国正答率と同程度でしたが、「書くこと」が全国正答率を下回っており、課題があるといえます。特に条件に従ってまとめた文字数の文章を書く作文の無解答率は 20.6% と、全設問中で最も高い結果でした。

【数学】

教科全体の市平均正答率は、全国正答率 68.2% に対し 65.3% でした。

領域別に見ると、「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」のいずれの領域も、全国正答率と同程度でした。「変化と関係」の、割引後の代金を求める式を選ぶ問題では、全国正答率を 10 ポイント以上、下回り、課題であるといえます。

【中学校 2 年生】

	国 語			数 学		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	95.2	94.9	96.8	96.1	96.0	96.4

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

教科全体の市平均正答率は、全国正答率 68.5% に対し 65.2% でした。

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国正答率と同程度でしたが、条件に従ってまとまった文字数を書く作文や記述式の問題での無解答率が高いことが課題であるといえます。

【数学】

教科全体の市平均正答率は、全国正答率 58.6% に対し 56.3% でした。

領域別に見ると、「資料の活用」が全国正答率を 5 ポイント程度下回りました。中でも相対度数についての理解を問う問題では、全国正答率を 10 ポイント以上、下回り、課題であるといえます。

学年・教科によって傾向は異なりますが、全ての学年・教科において、本市の児童生徒の平均正答率は、全国の児童生徒全体の平均正答率を下回っています。しかしながら、学年が上がるにつれて全国の児童生徒全体の平均正答率に近づく傾向があります。過去の本調査や全国学力・学習状況調査の結果からも、同様の傾向をみとることができます。

各学年・教科の課題については結果とともにお示ししています。また、各学年・教科の指導改善のポイントについては、各学校に示しています。

学年・教科によっても異なりますが、理由を説明したり、条件に合った作文をしたりするなどの、記述することに課題が見られる傾向があります。教科を問わず、日々の授業において、記述する力、表現する力を伸ばすことができるよう、授業改善を図ります。

4 質問紙調査結果の見方

質問紙調査における個々の質問を、表に示すカテゴリーに分類しています。それぞれのカテゴリーに分類される一つ一つの質問について、「最も望ましい／良好な選択肢」「次に望ましい／良好な選択肢」「改善／配慮を要する選択肢」「特に改善／配慮を要する選択肢」を点数化し、どの程度の児童生徒が肯定的な選択肢を選んだかを数値化しています。その数値をさらに、全国平均を 50 とする偏差値として算出した値を示しています。

したがって、値が大きいほど肯定的な回答をした児童生徒の割合が高く、また値が 50 に近いほど全国平均値に近いことが分かります。同じ調査を実施した全国の児童生徒数は、学年によって異なりますが、概ね 13 万人から 20 万人となっています。

5 横須賀市立学校の質問紙調査結果

		小2	小3	小4	小5	中1	中2
自己認識	家族のささえ	51.1	50.4	51.2	52.0	51.4	50.6
	友だちのささえ	50.8	52.0	52.4	52.3	53.0	52.2
	先生のささえ	52.1	51.2	51.2	52.1	50.5	50.5
	成功体験と自信	50.3	50.5	51.2	50.2	50.6	50.0
	充実感と向上心	50.7	47.9	48.1	47.1	48.5	48.5
	感動体験	—	—	—	53.8	54.6	53.4
	他者からの評価	—	49.9	49.4	51.6	51.8	51.5
社会性	規範意識	49.8	50.0	50.8	50.6	49.7	49.6
	思いやり（人間関係構築力）	51.2	50.8	51.3	50.7	50.2	50.2
	発信力	48.5	50.7	49.8	50.4	51.2	50.5
	社会参画	—	—	—	50.1	50.5	49.5
学級環境	学級の規範意識	49.9	47.3	47.8	51.1	50.1	50.7
	学級の絆	47.2	50.2	49.8	51.6	51.1	50.5
	いじめのサイン	47.9	47.4	48.6	49.9	49.7	50.2
	対人ストレス	51.4	50.3	50.2	48.1	46.8	47.3
生活・ 学習習慣	生活習慣	50.1	49.2	50.5	50.6	50.1	49.4
	学習習慣	49.8	49.5	48.5	47.0	48.4	48.0
	学習意欲	48.2	48.9	49.2	48.5	49.1	48.9

※発達段階に合わせて質問が設定されているため、学年によって質問のないカテゴリーがあります。

「家族のささえ」「友だちのささえ」「先生のささえ」については、全ての学年で全国平均値を上回っており、家族や友だち、先生との関係については、全国と比較して良好であると捉えることができます。また小学校5年生以上に設定されている「感動体験」については特に良好な値を示しており、自分の変化の転機となるような出会いには比較的恵まれ、それに気づく心も育まれていることがみとれます。一方で「充実感と向上心」については、小学校2年生以外の全ての学年で全国平均値を下回っており、今現在の充実感を実感し、未来の自分を信じて頑張る力を伸ばす機会を、より充実させることが求められます。

「学級の規範意識」「学級の絆」「いじめのサイン」については、学年が上がるにつれて値が上昇する傾向があり、より良い学級集団が形成されていますが、「対人ストレス」については逆に、学年が上がるにつれて値が下降する傾向があり、人間関係のストレスを、上級学年ほど全国平均値よりも強く感じていることがうかがえます。

「学習習慣」「学習意欲」については全ての学年において全国平均値を下回っており、学習意欲を持たせ、基本的な学習習慣を確立することができるよう、指導改善を図る必要があります。

Ⅱ 令和3年度(2021年度)全国学力・学習状況調査の結果について

小学校6年生と中学校3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に実施しました。

本市では本調査について、限られた教科および学年での実施であることや、それぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことから、調査結果が学力すべてを表すものではなく、学校教育活動の一側面を示すものと考えています。しかし、一側面ではあるものの、本調査結果を児童生徒の学習状況や生活状況を把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のためにしっかりと役立てていきたいと考えています。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査事項

①教科に関する調査

* 小学校調査は国語及び算数とし、中学校調査は国語及び数学とする。

* 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

ア. 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ. 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

* 調査問題では、上記アとイを一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

②児童生徒に対する質問紙調査

* 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 公表について

序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

2 教科別結果の見方

各学年の教科別の結果については、全国の公立学校の児童生徒全体の平均正答率を100としたときの、横須賀市の平均正答率を示しています。

3 横須賀市立学校の教科別結果

【小学校6年生】

	国 語	算 数
横須賀市	92.7	95.4

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

市平均正答率は、全国公立学校の平均値 64.7% に対し 60% でした。

全国の平均正答率より 5 ポイント以上、下回った設問として、漢字の書き取り、主語と述語との関係を捉える問題のほか、目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題（記述）、目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題（記述）があげられます。

【算数】

市平均正答率は、全国公立学校の平均値 70.2% に対し 67% でした。

全国の平均正答率より 5 ポイント以上、下回った設問として、三角形の面積の求め方についての問題のほか、二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題、小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を 1 としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する問題があげられます。

【中学校3年生】

	国 語	数 学
横須賀市	99.1	101.4

各教科の全体的な傾向および課題の見られる事項

【国語】

市平均正答率は、全国公立学校の平均値 64.6% に対し 64% でした。全国の平均正答率より 5 ポイント以上、下回った設問はありませんでした。

全国平均とほぼ同等ではあるものの、本市で最も平均正答率が低かった問題（19.5%）は、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ問題（記述）でした。この問題の無解答率は 19.8% に上りました。

【数学】

市平均正答率は、全国公立学校の平均値 57.2% に対し 58% でした。全国の平均正答率より 5 ポイント以上、下回った設問はありませんでした。

全国平均とほぼ同等ではあるものの、本市で最も平均正答率が低かった問題（11.2%）は、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題でした。この問題の無解答率は 28.3% に上りました。

小学校6年生においては、国語・算数ともに本市の児童生徒の平均正答率は、全国の公立学校の児童生徒全体の平均正答率を下回っていますが、中学校3年生においては、国語・数学ともに本市の児童生徒の平均正答率と、全国の公立学校の児童生徒全体の平均正答率はほぼ同程度とみることができます。過去の本調査や、本市の学習状況調査からもみとることができるように、本市の児童生徒は学年が上がるにつれて全国の児童生徒全体の平均正答率に近づく傾向があります。

各学年・教科の課題については結果とともにお示ししています。小学校6年生においては、国語においても算数においても、理由などを記述する問題において、指示された条件を満たしていない解答が多くみられます。また中学校3年生においても、国語・数学ともに記述によって解答する問題の無解答率が高い傾向にあります。

4 質問紙調査結果の見方

質問紙調査における小学校6年生・中学校3年生それぞれ69の質問事項のうち、本市の児童生徒の傾向と、全国の公立学校の児童生徒全体の傾向とが大きく異なる質問事項について示しています。「選択肢」に挙げた回答をした児童生徒の割合（複数の選択肢を挙げているものについては、それらの合計）について、本市と全国の値を比較しています。本市と全国との差が5ポイント以上の質問事項について示していますが、本市が全国よりも優位であると判断できる質問事項の差については**ゴシック体**にて表記しています。

5 横須賀市立学校の質問紙調査結果

【小学校6年生】

質問番号	質問事項	選択肢	本市 (%)	全国 (%)	差
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	「①している」「②どちらかといえば、している」	75.8	81.2	△5.4
(5)	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか	「①4時間以上」「②3時間以上、4時間より少ない」	35.9	29.0	6.9
(9)	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか	「①当てはまる」「②どちらかといえば、当てはまる」	65.7	70.9	△5.2
(14)	自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか	「①当てはまる」「②どちらかといえば、当てはまる」	64.7	70.3	△5.6

質問 番号	質問事項	選択肢	本市 (%)	全国 (%)	差
(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	「①よくしている」 「②ときどきしている」	65.1	74.0	△8.9
(18)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	「①3時間以上」 「②2時間以上、3時間より少ない」	21.9	26.9	△5.0
(19)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	「⑤1時間より少ない」 「⑥全くしない」	49.3	39.1	10.2
(23)	新聞を読んでいますか	「④ほとんど、または、全く読まない」	81.5	70.4	11.1
(26)	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか	「①ほぼ毎日」 「②週1回以上」	25.6	40.1	△14.5
(27)	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか	「①ほぼ毎日」 「②週1回以上」	16.4	39.0	△22.6
(41)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	「①当てはまる」「②どちらかといえば、当てはまる」	68.4	73.5	△5.1
(43)	国語の勉強は好きですか	「①当てはまる」「②どちらかといえば、当てはまる」	52.5	58.4	△5.9
(54)	算数の授業の内容はよく分かりますか	「①当てはまる」「②どちらかといえば、当てはまる」	79.6	84.6	△5.0

【中学校3年生】

質問番号	質問事項	選択肢	本市 (%)	全国 (%)	差
(5)	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか	「①4時間以上」「②3時間以上、4時間より少ない」	37.4	32.3	5.1
(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	「①3時間以上」 「②2時間以上、3時間より少ない」	50.0	41.8	8.2
(20)	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む）	「①教わっていない」	27.8	36.4	△8.6
(21)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	「⑥全くしない」	46.9	37.4	9.5
(23)	新聞を読んでいますか	「④ほとんど、または、全く読まない」	86.2	76.7	9.5
(26)	1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか	「①ほぼ毎日」 「②週1回以上」	25.0	33.4	△8.4
(27)	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか	「①ほぼ毎日」 「②週1回以上」	61.9	34.8	27.1

質問 番号	質問事項	選択肢	本市 (%)	全国 (%)	差
(34)	1, 2年生のときに受けた授業では, 各教科などで学んだことを生かしながら, 自分の考えをまとめたり, 思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば, 当てはまる」	66.0	59.5	6.5
(39)	総合的な学習の時間では, 自分で課題を立てて情報を集め整理して, 調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば, 当てはまる」	77.1	70.2	6.9
(40)	あなたの学級では, 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い, 互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば, 当てはまる」	81.5	73.9	7.6
(48)	国語の授業では, 目的に応じて, 自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば, 当てはまる」	66.6	61.3	5.3
(49)	国語の授業では, 目的に応じて, 自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば, 当てはまる」	80.2	74.6	5.6
(55)	数学の授業で学習したことは, 将来, 社会に出たときに役に立つと思いますか	「①当てはまる」 「②どちらかといえば, 当てはまる」	69.0	74.6	△5.6
(62)	1, 2年生のときに受けた英語の授業では, 英語で話したり書いたりして, 自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか	「②当てはまる」 「②どちらかといえば, 当てはまる」	73.3	67.7	5.6

小学校6年生においては、5つの質問項目で、全国との差が8ポイントを超えており、それぞれの結果から次のような傾向をみとることができます。

- ① 家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が低い。
- ② 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、勉強をする時間が短い。
- ③ 新聞を読まない児童の割合が高い。
- ④ 5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器を使用する頻度が低かった。
- ⑤ 学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用する頻度が低い。

また中学校3年生については、6つの質問項目で、全国との差が8ポイントを超えており、それぞれの結果から次のような傾向をみとることができます。

- ① 学校の授業時間以外の平日に、勉強をする時間が長い。
- ② 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている生徒の割合が高い。
- ③ 学校の授業時間以外に、平日に読書を全くしない生徒の割合が高い。
- ④ 新聞を読まない生徒の割合が高い。
- ⑤ 1・2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器を使用する頻度が低かった。
- ⑥ 学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用する頻度が高い。

学習習慣については、先に示した「横須賀市立小・中学校学習状況調査」の結果では、調査学年すべてにおいて全国平均値を下回っています。小学校6年生についても同様の傾向がありますが、中学校3年生については、平日の学習時間が長い傾向にあります。また小学校6年生・中学校3年生ともに、新聞を読まない児童生徒の割合が高く、中学校3年生については読書をしない生徒の割合も高い傾向にあり、課題であるといえます。

授業におけるコンピュータなどのICT機器の活用頻度については、昨年度までの授業においては全国平均値を下回っており、現状を問う質問でも、小学校6年生においてはその傾向に変化がありませんが、本調査実施日までに1人1台端末の配備を終えた中学校3年生においては、全国平均値を大きく上回っています。今後もICT機器を活用できる環境を整えるとともに、より効果的に活用することができるよう、努めてまいります。

Ⅲ 本市の課題と今後の取組について

2つの調査の結果をふまえた本市の課題に対して、今後次のような取組を実施し、学力向上に努めてまいります。

本市の課題	今後の取組
小学校低学年に課題がみられる。	学習支援員や低学年アドバイザーなどを活用しながら、小学校低学年における指導改善のための方策を講じる。
理由を説明したり、条件に合った作文をしたりするなどの、記述することに課題がみられる。	記述、表現する力を伸ばすことができるような授業づくりについての指導助言を行う。
学習意欲が低い児童生徒、基本的な学習習慣が確立していない児童生徒の割合が高い。	学習意欲を持たせ、基本的な学習習慣を確立することができるような指導改善についての助言を行う。
新聞を読まない、読書をしない児童生徒の割合が高い。	学校司書などを活用しながら、学校図書館や読書指導の充実を図る。
I C T機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用する頻度が、機器の配備を終えた中学校において高い一方、配備を終えていない小学校において低い。	I C T機器をより効果的に利活用できるよう、環境整備及び指導助言を行う。

これまでの学習状況調査の結果については、教育委員会が課題を明らかにして市内各学校に周知し、指導改善につなげるよう指示してきました。また市内各学校においては、それぞれの学校の調査結果を分析し、指導改善につなげていく取り組みを行ってきました。

その結果、9年間の学びを通して、本市の児童生徒の学力が向上していることがみとれています。横須賀市立小・中学校学習状況調査、および全国学力・学習状況調査を実施し、その結果を分析したうえで成果と課題を明らかにして、指導改善につなげていくサイクルが確立したことで、学力の向上を図ることができていると考えられます。

今後もこれらの調査を継続して実施するとともに、結果を分析して指導改善につなげてまいります。